



# さよなら、魔女が住む町

丸紅サンホセ出張所 永井 章平  
(2009年帰任)

私が住んでいる Escazu (エスカス) は、コスタリカの首都サンホセの中心部から西へ車で三〇分ほどの静かな山沿いの町です。欧米の大使館や大使公邸がいくつかあり外国人が多く住む地域で、ここ数年は大型のコンドミニウムや、高級店が軒を並べるショッピングセンターの建設も進んでいます。この町は別名「魔女の町 (Ciudad de las Brujas)」と呼ばれます。私の社宅のすぐそばにあった古い屋敷に魔女が住み、人々にいたずらをしていたそうで、エスカスの人は今



これが「魔女ステッカー」

社宅からサンホセ方面を望む

でも車に魔女のステッカーをはって走らせています。

単身での駐在生活はどうしても運動不足になりがちなので、休日の朝は社宅の近くを一時間ほどウォーキングすることにしています。アップダウンが多く結構な運動になりますが、澄んだ青空の下を歩いていると体も心も元気になります。今日はそんな散歩道で出会った、日本では見られない風景をご紹介します。

歩いていて目に付くのは不動産屋、建築事務所、そして獣医です。外国人が土地を買い、家を建て、そして犬を飼うためでしょう。実際、大きな屋敷から専用のトレーナーに連れられて立派な犬が散歩に出るのをよく目にします。犬と並んで多いのが馬と牛です。昔ながらのカウボーイハットをかぶったおじさん自慢の愛馬の蹄鉄を鳴らして通り過ぎるかと思えば、ガレージに牛をつないで「牛乳売ります」と手書きの看板を出し



「子犬・子猫売ります」の張り紙のある動物病院



エスカスの町並み

坂道が多い町



ている家があります。都市化は進んでいますが、コスタリカの人々の生活の中には今でも、力を合わせて農耕牧畜に励み国を築いてきた伝統が生きているのを感じます。また、どの家もきれいな花や大きな木に囲まれ、豊かな時間が流れています。

こんな魔女の町とも、残念ながらもすぐお別れです。ですが私は、機会があればまた必ずこの静かな、光と緑にあふれた街を訪れるでしょう。

※文章は二〇〇九年時点のものです。